



ぼっぼ屋



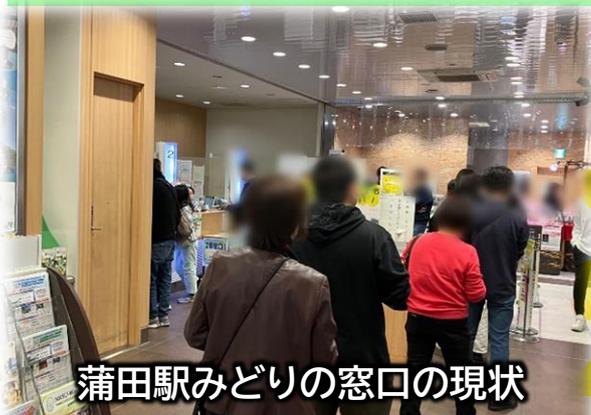
輸送サービス労組 東京支部

2024.6.18
NO.122

JR 蒲田駅繁忙期窓口増設

結局現場に丸投げ！

～現在の駅業務の要員はまさに綱渡り～



蒲田駅みどりの窓口の現状

※プライバシー保護のため画像を修正しています。

窓口業務は
増えるのにも関わらず
首都圏本部から

応援予定なし！

さらなる追い打ち

要員不足に

6月4日、JR東日本の喜勢社長は報道各社との記者会見にて繁忙期に蒲田駅を含めた15駅について混雑状況に応じて閉鎖した窓口を復活させると発表した。しかし、対象の蒲田駅には想定問答どころか事前の通知すら無く、またしても職場周知より報道が先行する「寝耳に水」の事態であった。営業現場では矢継ぎ早の施策実施により、心身を病む者・休職や離職に追い込まれる者が後を絶たず、過度の省人化が要員不足に拍車をかけている。「ヒトを起点とした価値・サービスの創造」を謳うのであれば、現場にいる「ヒト」であるお客さまや社員の声に耳を傾け、現状改善に向けた策を取るべきだ。

今月に入りようやく勉強会でこの話を聞きました。それまではなにも聞かされていません。テレビの報道やネットのニュースで知りました。今、職場は本当に人が足りません。休日出勤をしていない月がほぼありません。勉強会ではお盆前売りが始まる7月9日から窓口を増設。前売り期間は2名、その後、9月3日までは1名、日勤者が増えます。今年2月、窓口が縮小されましたがその際の団体交渉で会社は「ト列の状況を見て対応可能である。」と回答している。臨時窓口を増設するならちゃんとそれに合った要員を現場に配置すべきだ！



大田営業統括センターの声